

後方支援車を導入

平成25年3月28日に総務省消防庁より枚方寝屋川消防組合に支援車Ⅰ型が無償貸与されました。支援車とは、長期の災害現場で、消防隊員への後方支援を目的とした車両で、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、消防の後方支援体制の充実を図るために配備されてきた車両です。緊急消防援助隊の創設後、全国各地における度重なる広域派遣において、支援車の重要性が高まりました。なお、乗車定員は、10人（最大26人）です。

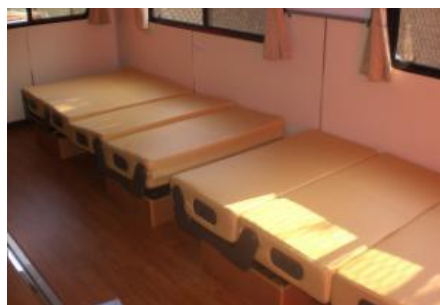
また、車両の特徴として、厨房設備やベット・シャワー・トイレ等の「居住スペース」と各種積載品をコンテナにまとめ積み込む「積載品室」に区別することができます。

居住スペースは、2人掛けシートが4台（8人）設置されています。シートを回転しテーブルを設定することで作戦室にしたり、展開しベッドにしたりすることも可能です。積載品室においては、最大4.5トンまでの荷物を積載できるようになっており、車両最後部にはパワーゲート（1トン対応）が設定されていることから重量物等の積み下ろしに対応できるよう設計されています。また、積載品を降ろし、折りたたみ式シートを展開すると16人分のシートが確保されます。また、隊員が仮眠できるように折りたたみのベッドを装備しています。積載品を降ろした状態での乗車定員は26人となります。

当該車両は今後、災害等発生時に、緊急消防援助隊大阪府隊の後方支援部隊等として活動していきます。



居住スペース



積載品室

